



子どもの考える力

副校長 黒木正人

今年度、本校では重点研究として、「子どもの思考力が高まる授業づくり」を目指し、国語を中心に取り組んでいます。11月にも第3回の重点研究の授業研究会を行いました。その際、「授業研究会はどのようなことをしているのですか。」と、保護者の方からご質問いただいたので、少しお伝えしたいと思います。

4・5組のあるグループでは、あいうえおのうたを作る学習の中で、「お話になっているね。」「同じ字を使っているんだね。」「なかまをもっと意識したらいいかもしれないね。」と、それぞれの活動のよさの価値付けを本人だけでなく、周囲の子にも伝わるように共有する教員の技術が見られました。それにより、子ども自身が考えて、自分の活動に取り入れたり、納得したりしながら進めることができていました。さらに、子どもが自分自身で活動を選択できるような準備がされていることにより、一人ひとりにあった学び方をすることができました。

また、別のグループでは、国語で大切にしている相手のことを考えて、活動していました。「1年生に出すクイズなら、平仮名かな。」「6年生向けだから、歴史にしようかな。」と、子ども自身が考えていました。子どもから、「警戒って分かりにくいから、言い換えるとしたらどうしたらいいのかな。」と質問されたら、みなさんなら何と答えるでしょうか。

そのとき、教員は「何か恐ろしいものが来て…」とだけ答えていました。すると、「こわがっているとかかな。」と自分で考え、納得することができました。きっと今の時代、答えを調べるのも、タブレットなどを使えばすぐに見つかります。ただ、知識をつなげながら考えるには、たった一言の方が効果的でもあります。それを互いに学び、授業改善を行うために研究授業は行われています。

国語を中心にしていますが、他の教科でも同様に行っています。例えば、6年生の算数では、このような学習がありました。教員は「300枚の画用紙を、全てを数えずに用意できないだろうか。」と問いかけました。すると子どもたちは、「重さが分かれば」「高さを測れば」と紙の枚数と関係しそうな量に注目して、実際に調べていきました。子どもが見通しをもてたことで、どんどん活動が進みました。



その中で、「1枚の重さや厚さは、全部同じと考えていいのかな。」「1kgを超えたら、針が振り切れてダメだから。」「量るたびに重さが変わるのはどうしてだ。」と、疑問を解決していました。「ほんと誤差だから」「正確ではないけど、ちょっと比例していそう。」と、クラスとしての納得を目指して話し合う姿も見られました。

そして、このような子どもの姿は、教員が事前に予想していたものです。講師からは、「目の前の子どもたちを理解して、授業の準備をしていたから予想できるのだ。」と、価値付けていただきました。しかし、それでも子どもの発想は教員の上をいきます。予想外の発言や発想に、さらなる授業力の向上の必要性を感じました。

このように、授業中の子どもを見て、教員が授業をよりよくすることで、子どもの思考力の育成を目指そうと取り組んでいます。ぜひ、ご家庭でも、お子さんがどのような学習をしているのか話題にしてください。

～12月 生活目標～

みまわ せいりせいとん
身の回りの整理整頓をしよう